

日本文学科 現2年生対象
令和5年度開講「演習」仮シラバス

【日本語学演習】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる可能性があります。

科目名	担当者	曜日	時限	ページ
日本語学演習ⅡA・ⅡB	仁科 明	月	4	18
日本語学演習ⅡA・ⅡB	富岡 宏太	月	4	18
日本語学演習ⅢA・ⅢB	吉田 永弘	木	6	19
日本語学演習ⅢA・ⅢB	諸星 美智直	木	3	19
日本語学演習ⅢA・ⅢB	三井 はるみ	火	6	20

【日本語学演習ⅡA・ⅡB】

【科目名】日本語学演習ⅡA・ⅡB	【曜日】月曜
	【時限】4限
【教員名】仁科 明	
【テーマ】中古日本語の研究	
<p>(演習内容)</p> <p>ことば（語彙や語法）に注目しながら、中古（八代集）の和歌を読んでいく。注釈類を参考にしつつ、そこで用いられていることばが、古代の和歌や散文作品においてどのように用いられていたのか、各種索引類も利用しながら確認しつつ、理解を深め、解釈を確定していきたい。</p> <p>毎回、発表者と司会者（発表へのコメント担当）を決めて、両者を中心に、参加者の意見も求めながら議論し、読み進めていく予定（分担は学期のはじめに決定する）。発表資料は発表の前週までに配布することとするので、担当者以外も目を通して、発言できるようにしておくこと。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>授業への参加（発表・質疑など）・50%、レポート50%。</p>	

【科目名】日本語学演習ⅡA・ⅡB	【曜日】月曜
	【時限】4限
【教員名】富岡 宏太	
【テーマ】中古日本語の研究	
<p>(演習内容)</p> <p>源氏物語を主な資料として、中古日本語の研究を行う。</p> <p>最初に教員が調査や発表の方法について数回にわけて解説した後、受講生による問題設定、調査・考察、発表を行なう。</p> <p>この演習では、主に、文法形式や語彙、類義表現、言語行動などについて、以下の方法を中心に考えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中古語の複数の形式や表現をくらべることで、それぞれについて明らかにしていく方法 ・中古語と現代語とにおける類似形式や表現を対照することで、両言語における特徴を明らかにしていく方法 <p>以上を通して、比べて考えることの大切さや、さまざまな「日本語」の一つとしての中古語の特徴に、気づけるようになってほしい。</p> <p>受講者の人数にもよるが、前期に1つのテーマ、後期にもう1つ別のテーマで発表をしてもらう予定である。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表内容及び質疑応答の積極性（50%）、レポート（50%）</p>	

【日本語学演習ⅢA・ⅢB】

【科目名】日本語学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜
	【時限】6限
【教員名】吉田 永弘	
【テーマ】中世日本語の研究	
<p>(演習内容)</p> <p>キリシタン資料の『天草版平家物語』をとりあげて、中世末期の日本語を学習する。はじめに担当教員が演習の方法を解説した後、各自担当箇所の調査・報告を行う。発表を経て、問題点をさらに追究し、レポートにまとめる。</p> <p>以上の作業を通して、中世日本語が古代語から近代語への流れの中にあることを理解しながら、日本語の史的研究の方法を身につける。あわせて、発表する力・レポートを作成する力を養う。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表 50%、レポート 50%。</p>	

【科目名】日本語学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】木曜
	【時限】3限
【教員名】諸星 美智直	
【テーマ】ⅢA ビジネス言語学（文書・会話の語彙・語法）とⅢB 近代敬語の研究	
<p>(演習内容)</p> <p>少子化とグローバル化により異文化共生の時代となりつつある現代社会で生き抜くためには、教職に関しては国語教育と日本語教育の両方に対応できる人材、企業については国際交流を視野に入れた経済活動に役立つ言語能力を習得することが就職力を強めることになる。そこで、ⅢA [前期] は、現代のビジネス文書及び経済小説・企業ホームページを資料として、ビジネス敬語・語法・語彙を中心に①通時的、②共時的、③対照言語学的、④ポライトネスなどの方法によって、例えば「～いただけますようお願い申し上げます」のような揺れ動くビジネス敬語の実態を解明する。ⅢB [後期] は近代日本語（近世～現代）の研究テーマの概要を述べた後、近代の小説・速記録・日本語教科書等を資料として、近代敬語の変遷を分析する。日本文学科の就職先としてサービス・卸・小売りが多く、また就活支援に力を入れている金融・製造・公務員等の進路に益することを考慮して、敬語研究を重視するとともに実践的な業界・企業研究を兼ねた就活に強い「ビジネス言語学」の構築を目指している。これは同時に日本語教育学における学習者の主要なニーズでもある。前・後期とも、講座担当者による解題と先行研究の紹介のあとは、受講者による研究発表の形式で進めて行くので、活発な質疑応答の場となるよう望む。なお、随時、日本語学・日本語教育学の関連学会の情報を紹介する。卒業論文の履修者には履修を勧める。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表・質疑（20%）・単位レポート（80%）による。</p>	

【科目名】日本語学演習ⅢA・ⅢB	【曜日】火曜
	【時限】6限
【教員名】三井 はるみ	
【テーマ】社会言語学文献講読と調査研究	
<p>(演習内容)</p> <p>新語・新用法、ことばのジェンダー差、ことばの「誤用」、ネーミングなど、身の回りのことばをめぐるトピックは、興味深い話題として人々の関心を引きつける。一方で、そのような目に付く現象を、言語的、社会的背景の中で理解し、読み解くためには、一定の手順によるデータの収集とその分析が必要となってくる。本授業では、主として社会言語学的なテーマについて、研究対象の設定、先行研究の探索、資料、データ収集法、分析法など、言語研究に必要な方法論を学ぶ。前期は論文講読。指定した研究論文を受講者各自が担当し、報告・討論を行う。後期は小研究発表。各自がテーマを定めて小調査を行い、発表する。</p>	
<p>(評価方法)</p> <p>発表内容とレポートによって評価する。発表は前後期各1回担当し、それぞれについてレポートを提出する。</p>	